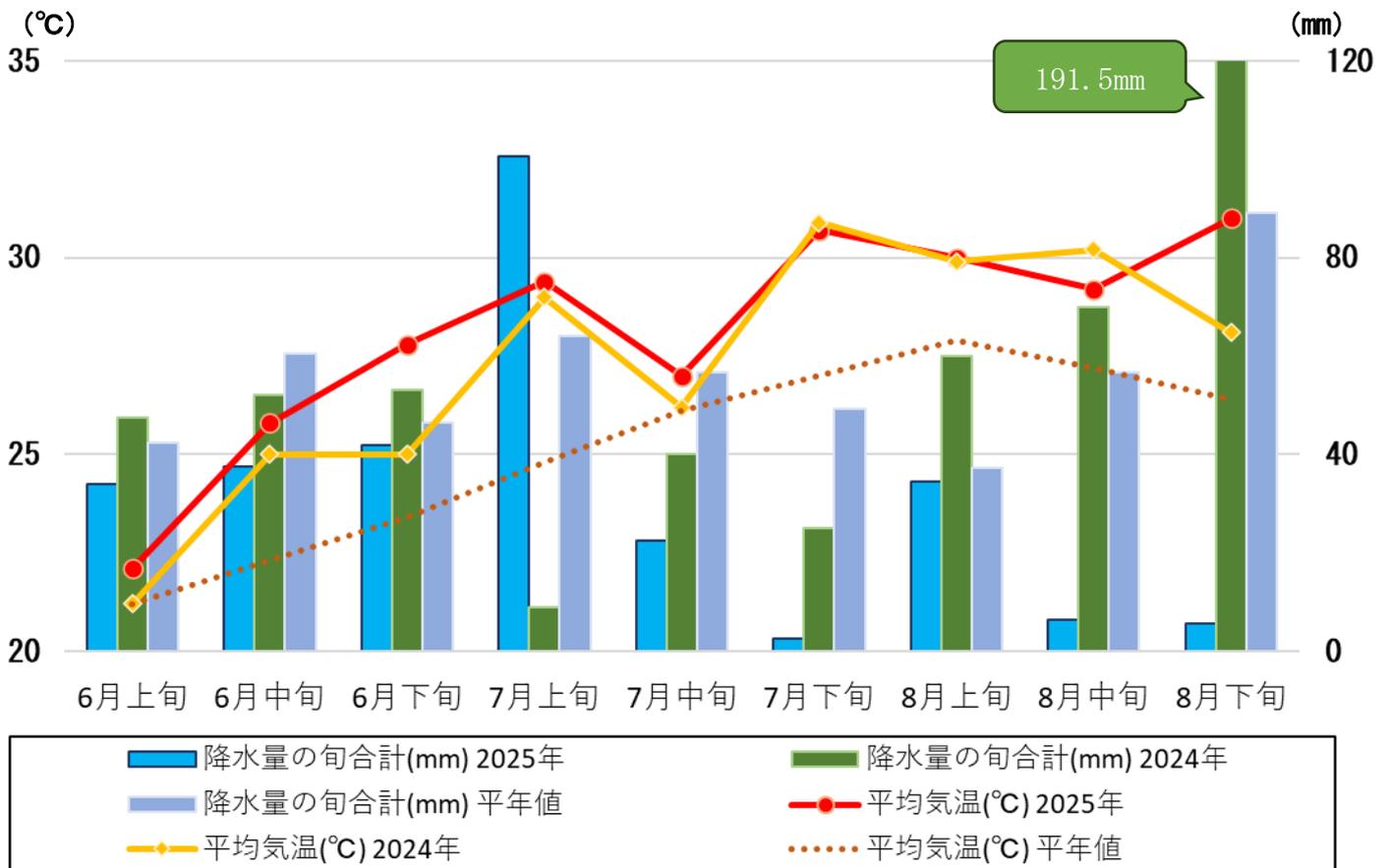


# ねぎの病害虫対策

令和7年9月3日  
大里農林振興センター

## 1 高温期の天候について



今年の夏も昨年同様、気温は平年値より高く推移しています。  
降雨量については、7月前半に集中豪雨や台風第5号がもたらした降雨で多くなりましたが、以降は昨年よりも少ない状況が続いています。一方でアメダスに観測されなかった局地的な豪雨は発生しており、土壤水分の高まりから土壤伝染性病害の発生が懸念されます。

## 2 今後の天候及び病害虫発生について

気象庁が8月28日に発表した「向こう1か月の天候の見通し」によると、関東甲信地方の気温は高く、降水量は平年並みや少ない見込みです。

また埼玉県病害虫防除所が8月26日に発表した「病害虫発生予察第5号（9月予報）」によると、発生量についてシロイチモジヨトウとネギアザミウマが「多」、黒斑病とネギハモグリバエが「やや多」となっております。また同所の「病害虫

発生予察注意報第5号」(8月22日発表)において、シロイチモジヨトウの発生量が平年や多発年だった昨年を上回っていることを発表しております。

気温の高い状態が続きますのでほ場をよく観察し、病虫害防除に努めましょう。

### 3 注意すべき病虫害

#### (1) 軟腐病

罹患部の葉鞘や根は部分的に淡褐色となり、悪臭を伴って腐ります。下葉が黄変し、被害が進むと地際から倒伏します。30℃前後の高温期に、ほ場が多湿条件であると発生します。また、窒素過多も発生を助長します。

防除薬剤例：カスミンボルドー(24, M01)、スターナ水和剤(31)、バリダシン液剤5(U18)



図2 軟腐病

(出典：埼玉の農作物病虫害写真集)

#### (2) 白絹病

葉鞘の地際部に白色の絹糸状の菌糸を生じて褐変腐敗します。密生した菌糸の中に淡褐色のナタネ種子状の菌核が生じます。夏期に降雨が多いと、地温が高く土壌が多湿になるため、発病しやすく被害の進展も速まります。

防除薬剤例：ロブラール水和剤(2)、カナメフロアブル(7)、ファンタジスタ顆粒水和剤(11)、セイビアーフロアブル(12)、バリダシン液剤5(U18)



図3 白絹病

(出典：埼玉の農作物病虫害写真集)

#### (3) 褐色腐敗病

土壌中の細菌が地温の高い時期(増殖適温:28~32℃)に発根部から侵入し、組織内で増殖することで褐変・腐敗を起こします。腐敗しても軟腐病のような悪臭はなく、甘い臭いとねぎの臭いの混じった独特の臭気があります。地下部に生じた傷口が侵入門戸となりますので、ネダニ等土壌害虫の加害部位から発生することがあります。



図4 褐色腐敗病

(出典：埼玉県病虫害防除所)

#### (4) シロイチモジヨトウ

7月ごろから発生が始まり、8~9月に被害ピークを迎え、11月まで発生する高温適応性の害虫です。広食性で50種類以上の植物を加害します。齢が進むと薬剤感受性が低下するとともに葉に食入するため、若齢時に防除することが大切です。

防除薬剤例：ディアナSC(5)、アファーム乳剤(6)、コテツフロアブル(13)、ベネビアOD(28)、プロフレアSC(30)



図5 シロイチモジヨトウ

(出典：埼玉の農作物病虫害写真集)

## (5) ネギハモグリバエ

成虫は葉の組織内に点々と産卵し、う化した幼虫が葉肉を食べ、食害痕は白いすじ状になります。本県でも令和元年に1葉当たりの産卵数が多いB系統が見つかっており、被害が進展すると葉全体が白化したようになります。多発後は防除が困難になるため、早期防除が重要です。

防除薬剤例：アグロスリン乳剤（3A）、リーフガード顆粒水和剤（14）、  
※ベネビアOD（28）、※グレーシア乳剤（30）  
※…「ハモグリバエ類」で登録

- ・ 防除薬剤例は令和7年8月6日時点の登録内容です。
- ・ 農薬名後ろのカッコ内数字はRACコードです。



図6 ネギハモグリバエ  
B系統食害

（出典：埼玉県病害虫  
防除所）

- 必ず使用農薬のラベルを確認し、**規定の散布液量・希釈倍数**で使用してください。
- 同じ薬剤・同じRACコードの薬剤の**連用は避け**、飛散に十分注意して使用してください。
- 栽培記録簿等の農薬チェック表を事前によく見て、使用回数等をよく確認しましょう！

いい農業にしよう運動 2025～9月版～

### 地番、面積、栽培歴、所有者や契約条件等、ほ場や施設に関する情報を整理しましょう

#### ◇整理する項目

- 地番
- 区分  
(自己所有、借入など)
- 面積
- 借り入れの契約内容  
(借地代、契約期限、支払日)
- 栽培歴、現在の栽培品目



#### ◇取り組もう！！

- ・ 生産ほ場や施設は、番号や名称等を付けてわかりやすく区別する。
- ・ 整理したほ場の一覧とともに、一覧と照合できる地図も作成する。
- ・ 生産ほ場だけでなく、ほ場周辺の建物やほ場周辺の履歴についても記録しておく。

生産ほ場や施設は、農業経営の最も重要な基盤です。これらに関する情報を整理しておくことで、今後の経営を考えたり農作業計画を立てたりするうえで重要な情報源になります。



「いい農業にしよう運動」  
についてはこちら→



上記はS-GAP取組項目の1つです。

S-GAP認証の取得にご興味がある方は下記にご連絡ください。

大里農林振興センター 管理部 地域支援担当 048-523-2812